

## 開会挨拶

長嶋 ただいま紹介がありました長嶋でございます。今日は、会場いっぱいにお運びいただきました皆様方、本当にお忙しい中ありがとうございます。

まず、ここから会を始める前に、ちょうど来週で東日本大震災が起こって1年になります。その節目を前に、この場にお集まりいただいた方々皆様にご協力いただき、震災で亡くなられた方々に黙祷をささげる時間を少しいただきたいと思います。まずご起立願えますでしょうか。黙祷。

〔黙祷〕

ありがとうございました。ご着席くださいませ。

今、東日本大震災に遭われた方々に私たち会場一同で送らせていただいた祈りでございますが、震災そのもの、こんな悲劇は起こるべきことではないと思います。ただ、この震災を節目に私たち派遣業界は、時の大臣から速やかに被災地に向かって就業機会をつくるようにと国からの要請をいただき、ちょうど先月2月までで2万を超える仕事の機会をつくることができました。災害そのものは起こるべきことではない、起こってほしくはないことでしたけれども、我々の社会に対してあるべき事業の意味を示す機会をいただくものとなりました。

世界を見渡すと少し前のことではありますが、世界中が巻き込まれたこれまた起こってはいけない、起こってほしくないリーマンショックがございました。このリーマンショックを1つの節目ととらえるならば、今日、これからの時間のカンファレンスの中にそのことはコンテンツとしても触れられると思います。また、皆様のお手元にあるレポートにも記されておりますが、このリーマンショック以降、派遣というサービスを活用した国は、経済復興のスピードが速い。なかなか活用し切れなかった国は、遅れたグループのほうに入っております。リーマンショック以降の経済復興は様々な要素はあるかもしれませんが、ここ日本は少し遅れたグループのほうに入っております。

我々の業界にとってこういった節目は、私たちの社会の中での役割を示す意味、そしてその示す意味が明らかになったときには、その先にある未来のことをもう1度じっくりと考えねばならないそんなタイミングだと思います。震災後、我々が示せたこと、そして、もう少し前から世界中でリーマンショック後に起こったこと。それぞれの国でそれぞれのナレッジがあります。Ciettというのは、派遣業界の団体で、46カ国にそれぞれの協会がありますが、それらがまとまった世界的な団体です。今日は、そのCiettでまとめたグローバルのレポート、タイトルは変化する時代に適応するということで「Adapting to change」となっています。お手元の資料です。それに付随して我々の日本での研究、あわせてそれぞれの立ち位置でこの業界、このマーケットを見ている識者の中で、私たちの未来にあるべき示唆を議論してまいりたいと思います。

貴重なお時間をここでシェアしていただくことに改めて感謝するとともに、ぜひ皆さんで有意義な時間をつくっていきたいと思います。よろしく願いいたします。（拍手）